

矢作川流域圏懇談会通信

R6 山部会編 vol. 4



発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第71回山部会WGを開催しました！

岡崎市にて第71回山部会WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告やFWで視察する「天使の森プロジェクト」の活動を紹介していただきました。

日時：令和7年2月7日（金） 13:30～17:00

場所：こもれびかん（岡崎市）

参加者：26名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵの作成方針について報告しました。
- ・事例集Ⅵは2024～2025年度にかけて2冊に分けて作成します。テーマは「人口、税収の減少」「流域治水、水利用、流域環境保全（ネイチャーポジティブ）を組み合わせた流域総合水管理」「地域住民が自分ごととして取り組む防災」「（仮）伊勢湾流域圏大学」です。
- ・2024年度版は、12月に開催した公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の記録を掲載し、流域総合水管理の理念を共有します。
- ・2025年度版は、持続可能な流域に向けて研究や人材育成をしている諸団体・個人が既に（仮）伊勢湾流域圏大学の一端を担っていると位置づけ、取材等によって紹介します。
- ・第5回公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」の実施後のアンケート結果や感想について報告しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・根羽村で開催された「根羽村 森とまちの流域学」について報告しました。当該プロジェクトは地域資源を磨き上げ、魅力を最大限に活用することで、オンリーワンに「輝く農山村地域」の創造を目指す長野県のプロジェクトです。根羽村は「森林」を核とした取組地域に選出され、令和6年度から始動しています。コンセプトは「流域がつながり合う経済圏をつくる」とし、源流の根羽村が矢作川流域の暮らしや企業、社会に対してできることを村の皆さんと考え、学び、これからのプロジェクトへ活かしていくために企画されました。
- ・他にも岡崎市中山間政策課の高平祐輔氏より、岡崎市の取組みについて報告しました。岡崎市の森林整備ビジョンや森づくり協議会について、「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」等をご紹介していただきました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・第15期の木づかいガイドラインでは、「流域産材」の利用を呼び掛け、「流域産材」の活用事例や活用方法をまとめた資料を作成し、各自治体に提唱・PRすることを目標とする報告をしました。
- ・都市の木造化推進法に基づき設定された各自治体の木材利用の方針を比較し、見えてきた課題を報告しました。安城市では「根羽村産材」や「その他自治体間交流を行っている地域産材」という記載があります。その他の山が無い自治体では主に県産材の活用が記載されています。今後はそのような自治体に流域産材を呼び掛けていくこと報告しました。

2. 岡崎市の話題提供



- ・岡崎市森林組合の組合長を務める荻野昌彦氏から、「天使の森」プロジェクトについて説明していただきました。「天使の森」プロジェクトは森林の再生、里山の暮らし、地域循環型産業を考え、その実現に貢献していくことを目的としています。そのために様々な研究者をはじめとした各分野の専門家や地域に住む市民、企業、関係団体等の幅広いメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、課題解決に取り組んでいます。

3. その他



- ・2月15,16日に学生を中心に足助地区で森のミライ合宿を実施する予定です。森のミライ合宿は奈佐の浜プロジェクトと地域の未来・志援センターが協働で行っている取組です。次世代の担い手に経験の場づくりをサポートすることを目的としています。矢作川流域圏懇談会をはじめとした様々な団体と連携し、ネットワークを活用した取組を実施しています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

【テーマ別の活動進捗状況の報告】

1. 流域圏担い手づくり事例集

- 矢作川と第 14 期に交流のあった多摩川、公開講座で話題が上がった球磨川流域との人口密度を比較した。その結果、多摩川流域はおよそ 3000 人/m²、球磨川流域はおよそ 69 人/m²、矢作川流域はおよそ 400 人/m² であった。流域ごとに人口密度に差があるので流域に合った、治水計画が必要である。また、人口減少と同時に東京圏への人口の一極集中も問題となっている。多摩川も今後は人口が減少していくため、矢作川や球磨川の取組が先進事例になると考える。(近藤)

2. 森づくりガイドライン

- 岡崎市の森林整備ビジョンでは「めぐみ・うるおい・やすらぎ」が共生する森を目指している。目標達成に向けて、課題を抽出している。年に 2 回森づくり協議会というものを開催し、政策の進捗状況等を確認している。また、近年は森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度により、適切に管理されていない森林を市が仲介役となり、森林所有者と林業事業体をつなぐことを進めている。他にも中流部を盛り上げるために公共建築物には岡崎市産材を用いている。岡崎市では上下水道局等とも連携して森林整備活動「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」という取組を実施している。(高平)
- 今後は老朽化していく施設をどう維持していくかが重要となる。今後の維持管理では水循環等の自然資産をどのように活用していくかが重要となる。(近藤)

3. 木づかいガイドライン

- 木づかいガイドラインは今期のはじめに各自治体の担当者の把握と、流域産材をアピールする資料の作成を目標とする。最終的には 11 月ごろに「木づかいミーティング」のようなものを開催したい。(鈴木)
- 「おかざき木づかい塾」において昨年は卒業制作として災害時の仮設住宅で 4 人家族が住む家をテーマにコンペを開催した。木材を活用して簡易的に組み立てることが可能であり、プレハブより住環境も良く、地域材を活用できるため広めていきたい。(鈴木)
 - 「おかざき木づかい塾」は令和 5 年から開催されており、建築士や学生、木材関係者を対象に勉強会をしている。東京や大阪といった地域からも応募があり、岡崎まで実際に足を運んでいただき、セミナーを開催した。(高平)
 - 国産材の自給率は上昇しており、製材の自給率は 50% に近づいている。国産のものを使う流れが少しずつ進んでいる。それはウッドショック等で外国産材が入りにくくなっている影響と考える。木材の競争力や地域の木材が積極的に選ばれるようにし、CO₂ を極力排出しないようにしていきたい。流域は運命共同体というのを矢作川から発信できれば良いと感じた。(長野)

4. その他

- 岡崎森林組合の下請けをしている方が 5 月に亡くなられる事故が発生した。4 月に森林組合の職員が中心となって安全研究会を実施する予定である。まずは安全に対する意識を改める予定である(荻野)



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和7年6月27日(金)～28日(土)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和7年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆天使の森プロジェクト（トウナイドコ）の見学

最強寒波の大雪の中、岡崎の最も東端に位置するトウナイドコで実施している「天使の森プロジェクト」を見学しました。

プロジェクトの概要や取り組み内容について説明していただきました。

日時：令和7年2月8日（土） 9:30～11:30

場所：岡崎市 額田町

案内：秋吉直樹氏（NPO 法人アースワーカーエナジー）

参加者：21名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

【プロジェクトの概要】

「天使の森」とは誰もが天使になれる、という願いが込められており、岡崎の最東端に位置し、山頂から三河湾を望むことができる場所にあります。

森から海は繋がっている、このことが想起できる貴重な場所であり、森林の再生、里山の暮らし、地域循環型社会を考え、幅広いジャンルや世代のメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、共に課題解決に取り組んでいく場を創り、モデル事業を推進しています。

今回は、その拠点となるトウナイドコにおいて、建築中の施設（休憩所、種倉庫）や楮による紐づくりの現場を視察しました。



天使の森プロジェクトの拠点



建築中の種倉庫



建築中の休憩所



楮による紐づくりの現場



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

